

# 第2回 プレゼン大会 結果報告

10月17日（土）に経済学部主催「第2回プレゼン大会」を開催しました。本大会には、総勢9チームが参加しました。昨年よりも参加数は増えており、リニューアル後の大会が学生に浸透し始めているのではないのでしょうか。

当日は、テーマである「新幹線、北海道にどう活かす!？」に沿って、各チームが多様な視点にもとづく、独創的な発表を行いました。また、各チームの発表に対して、参加学生からの的確な質問が多数なされました。3時間超にわたって緊張感を維持した発表と論戦が繰り広げられ、時間が短く感じられるほど、充実した内容でした。また、メディアからの取材もあり、学生にとっては、良い成果発表の場になったものと思われま



参加チームからは「他チームの独創的な発表を聞くことができて良かった」という意見や、今後に向けて「質問時間をもう少し長くしてほしい」という感想などが寄せられました。北海道新幹線の活用法を模索しながら、参加した学生たちは新幹線開通が北海道にもたらす様々な影響、北海道の現状および将来について、理解を深めていったものと思います。各チームの発表が事前の予測を大きく上回る秀逸さで、審査も若干難航しましたが、結果として以下の3チームが表彰対象となりました。



## 優勝「和田ハウスプレゼン部」（経済学部2年） 準優勝「吉見ゼミ」（吉見ゼミ） 第3位「らぶりーあいかわ」（高井ゼミ）

優勝チーム「和田ハウスプレゼン部」は2年生チームながら、プレゼン自体の完成度が高く、レフェリーからの高い評価を集めました。話し方も聴衆を引き付けるような多くの工夫がなされていました。提案内容も、新幹線で貨物と乗客を輸送する貨客混載という、従来では実現できなかったプランをデータにもとづいて提示するきわめて野心的な内容でした。準優勝チーム「吉見ゼミ」は、北海道



新幹線の玄関口になる木古内町で万北博覧会という、北海道内の多くの地域による常設博覧会を設け、道内全体に新幹線による波及効果を生み出す提案がされました。同チームのデータに裏打ちされた手堅さは高い評価を受けました。3位チーム「らぶりーあいかわ（高井ゼミ）」は、八雲駅付近に全天候型観光施設としてカジノ・リゾートを作り、全シーズンで新幹線の利用者数を増やすという、アイデアが評価されました。



なお、総勢で約60人の来場者がありました。大会終了後の茶話会も含めて、盛況のうちに大会を終えることができました。参加した学生の皆さん、来場者の皆様に御礼申し上げます。  
(教務委員)